

温泉成分等のご案内



幡谷温泉
ささの湯

源泉名 幡谷温泉 ささの湯
泉質 アルカリ性単純温泉(アルカリ性低張性温泉)
湧出方法 動力削揚
塩素投入の有無 塩素投入無し

温泉1kg中の成分

泉温(分析時)

40℃

水素イオン(pH値)

8.6

(1)陽イオン

成分	ミクログラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
ナトリウムイオン(Na ⁺)	117	5.08	94.28
カリウムイオン(K ⁺)	1.19	0.03	0.56
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	0.68	0.06	1.03
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	4.45	0.22	4.13
鉄(Ⅱ)イオン(Fe ²⁺)	<0.01	0	0
マンガンイオン(Mn ²⁺)	<0.005	0	0
アルミニウムイオン(Al ³⁺)	<0.05	0	0
陽イオン計	123	5.39	100

(2)陰イオン

成分	ミクログラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
フッ素イオン(F ⁻)	9.3	0.49	9.47
塩素イオン(Cl ⁻)	5.3	0.15	2.92
硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	13.7	0.29	5.58
炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	229	3.76	72.3
炭酸イオン(CO ₃ ²⁻)	15	0.5	9.63
硝酸イオン(NO ₃ ⁻)	0.3	0.01	0.1
陰イオン計	273	5.2	100

(3)遊離成分

ア、非解離成分

成分	ミクログラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタけい酸(H ₂ SiO ₃)	29.7	0.38
メタホウ酸(HBO ₂)	1.5	0.03
非解離成分計	31.2	0.41

イ、溶存ガス成分

成分	ミクログラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素(CO ₂) (遊離炭酸)	0.9	0.02
遊離硫化水素(H ₂ S)	0	0
溶存ガス成分計	0.9	0.02

(4)その他の微量成分

総ひ素	0.011mg/kg
銅イオン	0.004mg/kg
鉛イオン・総水銀	検出せず。

分析年月日
登録分析機関
温泉分析登録番号

平成20年4月4日
(社)群馬県薬剤師会
群馬薬第2号

入浴を控えた方が良い疾患及び症状

急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般的に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)。

入浴をすると良い疾患及び症状

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進。

温泉利用方法及び注意事項

- ア、温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当り1回程度とすること。その後は1日当り2回ないし3回までとすること。
- イ、温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を適当とすること。
- ウ、温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわりまたは浴湯反応)が現われることがある。「湯あたり」の間は、を減じまたは入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
- エ、以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
- (1)入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
 - (2)入浴中は、運動浴の場合は列として一般的には安静を守る。
 - (3)入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起こし)やすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉を取るのがよい。
 - (4)入浴後は、湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 - (5)次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とす・高度の動脈硬化症・高血圧症・心臓病
 - (6)食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。
 - (7)飲酒しての入浴は特に注意する。
 - (8)熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こす事があるので十分注意をする。